

川崎市民のための生涯学習情報誌

Stage Up

ステージアップ

VOL.198 2014年6月1日（隔月発行）

もくじ

- 2 まち・ひと・多面体
- 3 シニアのパレット
- 4 特集
～音楽のまち・かわさき～
- 6 施設めぐり
- 7 情報ポケット



《かわさきの名所シリーズ②》
川崎河港水門 国登録有形文化財

誌上ギャラリー

1928年に川崎区を縦貫する大運河計画の一環として完成しました。社会情勢の変化から計画は中止されましたが水門（高さ20.3m、水門幅10m）だけが残りました。また、この水門は、旧内務省の多摩川下流改修事業に付随してでき、出水から河港を守る強固な水門です。この時、企業ごとの河川場が集約されて、川崎河港が誕生しました。現在も房総方面からの砂利の陸揚げ施設として使われています。水門の上部の塊は、当地の名産品であった梨、ブドウ、桃を籠に盛ったモニュメントを表しています。《交通手段》 京浜急行大師線「港町駅」または「鈴木町駅」下車、徒歩5分



発行・(公財)川崎市生涯学習財団

〒211-0064 川崎市中原区今井南町514-1

TEL 044-733-5560(代) FAX 044-739-0085

<http://www.kpal.or.jp/> Eメール:stage-up@kpal.or.jp



当財団は市民の主体的な学びと活動を支援するため諸事業を推進しています。

まち・ひと・多面体

未来へ託す地球環境を守ろう！

～かわさき市民共同おひさまプロジェクト～

自然エネルギーに対する関心は、東日本大震災を経験してから、特に高まってきています。『かわさき市民共同おひさまプロジェクト』は、この自然エネルギーの推進を通して、地球温暖化防止活動に取り組んでいます。

始まりは1999年に川崎市が開催した地球環境保全行動計画推進会議。『自然エネルギーの推進』『市民共同発電所の設置』と、目指す方向は決まったものの、実際の活動は形になるまでに多くの時間を要しました。周囲の理解や資金調達など、問題は山積みでした。

2005年『川崎新エネルギービジョン』の改訂で『市民共同発電所の設置』という項目が盛り込まれたこと、また、NPO法人アクト川崎との連携で資金調達が可能になったことで活動が大きく前進しました。市民や事業者からの寄付、補助金等を活用し国際交流センターに1号機の太陽光発電設備を設置したのが2008年、活動を開始してから9年がたっていました。



国際交流センター

2011年には2号機となる太陽熱温水器を川崎フロンターレ麻生グラウンドのクラブハウスに設置しました。その後も子ども夢パークでの体験型環境イベント「自然エネルギーで遊ぼう」の開催などで、化石燃料を使わない自然エネルギーの大切さを提案してきました。また、2012年に行われた「低炭素杯2012」全国大会では、ファイナリストになり、太陽光・太陽熱を利用した地球温暖化防止の活動についてプレゼンテーションしました。



この活動の代表をつとめる岩本孝子さんも当初は普通の主婦で何も知識がなかったと聞きます。それでも活動を通して自然エネルギーの素晴らしさ、大切さを知り、仲間を支えられて活動を続けています。地球の温暖化は知れば知るほど憂慮すべき状態で、未来へ託す地球の環境を良くするために、自然エネルギーの活用は不可欠だそうです。「環境に良いことにお金を使う社会になれば…」 「市民一人ひとりの少しずつの協力で環境は変えられる…」と岩本さんは言います。

市民ファンドの設立など、これから取り組んでいく課題が明確になってきています。この活動の広がり、川崎の未来へつながっていくものだと確信しました。

■ 問合せ かわさき市民共同おひさまプロジェクト

Tel 044-200-4109 代表 岩本孝子

多彩な趣味を地域に伝え続けて！

～多摩区、鈴木繁夫さんの取組～



鈴木繁夫さんは、専門的な技能や多彩な趣味を学校の子どもたちや地域に伝え続けています。なかでも、「わら草履づくり」は、毎年、長尾小学校の子どもに体験教室を開き教えてきました。わら草履は、鈴木さんが小さい頃に近所のおばあさんから教わったそうです。わら草履を売ったお金は、いいお小遣になったと懐かしく振り返ります。「小さい時の体験は、5・60年過ぎてても決して忘れることはない。だから子どもの成長期にこそ、手先や体を使った学びが大切だ」と話します。



わら草履の編み方は見せられるが、分かりやすく教え、伝えるのは決して簡単ではないといいます。教える前に分かりやすく伝える方法を考えてから臨んでいると苦勞の一端を覗かせます。また、家で草履をつくりたいという子どものためにも保護者(PTA)対象に体験教室を開くなど、昔の生活の知恵を後世に伝えていきたいという思いが伝わってきます。



△わら草履の原料



鈴木さんの故郷は、山梨県。わら草履や竹細工の材料は、郷里に帰った時にも集めるようにしています。地域には少なくなった材料を常に意識しながら過ごされています。「竹かご」は、ほしい人へあげるそうです。手作りかごを多くの人に使ってもらえたらうれしいといいます。「同じ人に何個も」と笑顔で話します。他にも専門的な技能の作品として自宅の梁(一本柱)や透かし欄間、床の間の柱等芸術的、専門的な趣味を持っています。更には、家を取り囲む数多くの盆栽は、素人の域を超えているように感じます。しかも盆栽等に散布する水には、手づくりの井戸が使われています。夏になると屋根にかけ、涼気が楽しめるのもいいです。そして、この手入れされた庭に咲く四季折々の



▲井戸と盆栽

花々を楽しみにしている人がいて、地域の癒しの場にもなっています。このような多くの事に興味関心を持ち続け、楽しんで活動する鈴木さんだからこそ、

80歳を過ぎてても今なお若々しいのでしょう。

■ 問合せ: 川崎市立長尾小学校

Tel 044-866-1535



川崎の海の歴史を後世に伝える



～川崎の海の歴史保存会の取組～

川崎の海の歴史を伝えるために

▲事務局長
老川美芳さん

1921年頃の川崎の漁業は、漁業組合員500戸、1700人の出稼ぎを抱える一大産業であったといわれています。現在、漁師をしている人はいませんが、保存会の代表渡邊光一さんと事務局長老川美芳さんの2人は、唯一、漁師経験者として16名の会員とともにのりづくりの体験を子どもや市民に教えています。のりづくり体験教室を始めたいきさつは、「当時の四谷地区には、のり業者を営む人が多く地元の子どもの川崎の海の歴史を伝えたかったため」と話します。今では、体験を希望する学校や市民も増え年間1000名を超えるといいます。うれしい反面、指導者の高齢化が進み人手不足を心配していましたが、楽しいのりづくり体験をするためにも準備を怠らないようにしているとさりげなく話します。



▲子どもの指導

続けてきて良かった……

保存会の年間活動は、1月～2月「のりづけ体験教室」、3月「のり採集、佃煮づくり」、4月「のり祭り」、6・7月「海洋調査」、10月「みなと祭り等への参加」、12月「ワカメ・のりの養殖準備」等年間計画がきっちり入っています。その一つ「のりづけ体験教室」に、川崎区の小学生(3年生)が、「のりづくりから試食まで」を体験。子どもの喜びと驚きが感動の声となって体験場に響き渡る時がなんともいえない気持ちになると笑顔で話します。



▲一般者への指導

子どもがつくったのりを、大事に美味しそうに食べる姿に、癒されてきたといいます。子どもから「のりが乾いていく音がパリパリするなんて初めて」とか「のりの採集は、命綱をするくらい危険な仕事なんだ」等の感想を聞いたり、お礼の言葉を言われたりすると、「続けてきて良かったと思う」と老川さんは話します。

1970年までは、川崎の海でも干潟ののりづくりやアサリ漁が行われていましたが、1972年の埋め立て開始と同時に漁師が激減し漁業に従事する人はなくなりました。

1993年に当時漁業をしていた人々が集まり、これまでに大きな実績を残してきた川崎の海の歴史や文化・伝統等を後世に伝えたいと「川崎の海の歴史保存会」(以下「保存会」という)を発足しました。今回事務局長老川さんから大師のりづくり体験教室や資料の展示、東京湾の魚介類の調査、海浜公園でワカメとのりを育てる活動等について、お話を伺いました。

保存会の活動の場と資料展示室



現在の「のりづくり体験場」は、1996年頃に川崎マリエンの隣に建てられました。決して広いとは言えない場所に用具や道具、乾燥機等々が手狭な場所に整然と置かれています。



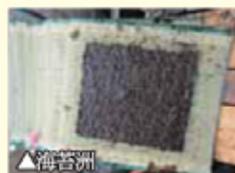
▲海苔づくり一式

雨天時の影響をできるだけ受けたくないためには、手狭な体験場の整頓に努めなければならないといいます。それは、体験者の予定日を天候によって変えたくないという見学者への配慮からです。

のりづくり体験指導を長くしていると親子2代にわたって教えてきたと感慨深そうに話していました。次世代を担う子どもたちが、川崎の海の歴史を知り、伝統産業を大切に行動へ結びつけてほしいと話します。



▲海苔づくり師範



▲海苔洲

今後への期待

保存会の会員は、確実に高齢化をむかえています。

今後一人でも多くの後継者が来てくれることを待ち望んでいます。小誌の掲載をきっかけに会員増加に繋がっていくことを期待していました。



▲マリエン内の展示場

また、「お金の問題もあるが、のりづくり館を建てて、のり実演コーナーや道具、用具、機械等が一式展示できたらうれしい。」と保存会の今後の抱負を聞かせてくれました。

ジュニアのプレゼント

「最幸で市民の笑顔があふれるまち」の実現に向けて



～音楽のまち・かわさきの取組～

キャラクターマスコット
「かわさきミュートン」

川崎市は、市民が愛着と誇りが持てるまちづくりやまちのイメージアップを実現するための一つに「音楽のまちづくり」を進めています。また、川崎の豊かな音楽資源（2つの音楽大学、市民オーケストラ、100を超える市民合唱団、企業の吹奏楽団と合唱団等）は、音楽を中心とした芸術や市民文化の創造の礎となっています。「最幸で市民の笑顔があふれるまち」の実現に向けて取り組む「音楽のまち・かわさき」について取材しました。

本格的な音楽ホール「ミューザ川崎シンフォニーホール」

2011年3月に発生した東日本大震災により被害をうけたミューザ川崎シンフォニーホールは、2013年4月に安全・安心なホールとしてリニューアルオープンしました。昨年11月には「奇跡の一週間」とも称された世界最高水準のウィーンフィルやベルリンフィル、ロイヤルコンセルトヘボ等のオーケストラによるコンサートが開催されるなど国際的にも高い評価を得ています。また、65歳以上の方を対象としたシニア音楽祭や市民第九コンサート等市民の晴れの舞台としても利用されています。市制90周年の今年、ミューザ開館10周年の記念の年でもあります。7月1日は、「ミューザの日」と題し大人も子どもも楽しめる様々なイベントが用意されています。

▲ミューザ川崎シンフォニーホール

大切な方との待合せ「ザルツブルクの鐘」

1992年に友好都市提携以来音楽を中心に交流を行ってきたザルツブルク市は、モーツアルトの生誕地としても知られています。毎年夏には、世界的にも有名な「ザルツブルク音楽祭」が開催されています。

そのザルツブルク音楽祭から、東日本大震災により被害を受けたミューザ川崎シンフォニーホールへ21万ユーロ（約2,100万円）の寄付がありました。そこで、友好都市の絆やミューザが多くの方に支えられ再開したことを広く伝えていくためにJR川崎駅改札ロラゾーナ側に「ザルツブルクの鐘」が設置されました。大切な方と「ザルツブルクの鐘」の前で待ち合わせて、川崎のまちを楽しむのも素敵ですね。



▲ザルツブルクの鐘

真夏の夜の音楽祭「フェスタ サマーミューザ」

夏の風物詩として定着してきた音楽祭「フェスタ サマーミューザ」が開催されます。《期間：2014年7月26日（土）～8月10日（日）》

今年から首都圏で活躍する10のオーケストラが、川崎に集まり音の競演を繰り広げます。各オーケストラや演奏者たちの個性豊かなプログラムによる素晴らしい音楽と国内外からの高い評価を得ているホールの響きを楽しむことができます。「音楽のまち・かわさき」のシンボル、ミューザ川崎シンフォニーホールで開催されるリーズナブルながら本格的な音楽が楽しめる音楽祭です。

「フランチャイズオーケストラ」がある「音楽のまち・かわさき」

日本を代表するオーケストラの一つである東京交響楽団と2002年にフランチャイズ提携を結びました。東京交響楽団は、ミューザ川崎シンフォニーホールを拠点に音楽活動を行い市民に本格的なオーケストラ演奏を提供する等、音楽のまちづくりの牽引役となっています。さらに、老人ホームや病院等への巡回公演や市内の小学校の児童をミューザに招待して行うコンサート、妊婦や親子を対象としたイベント等、ホールに足を運べない人やクラシックに興味がない人にも音楽を楽しんでもらえるプログラムが用意され、音楽のまちの裾野の拡大に努めています。



▲東京交響楽団巡回公演

世界も注目する「音楽のまち・かわさき」

スイス モントルーで開催されているモントルー・ジャズ・フェスティバルは、世界三大ジャズ・フェスティバルのひとつで、単にコンサートを行うだけでなく、「人づくり」「ものづくり」を目指す音楽祭として知られています。このフェスティバルから、音楽をツールとして大学や地域、民間企業等が連携してまちづくりを進める本市の取組が高く評価され、5年前から川崎でも開催されるようになりました。

各分野の頂点に立つ大物アーティストが、世界中から川崎にやってきます。また、ストリートミュージシャンによるフリーライブが市内各所で行われ、本場モントルーをほうふつするナイトマーケットも出店し、フェスティバルを盛り上げます。また、ジャズへの造詣を深め、さらなる楽しみ方を広げるためのジャズアカデミーや大学でのワークショップを開催する等、新たな取組にチャレンジし川崎独自のフェスティバルへと成長しています。

▲ジャズフェスティバル

音楽は世代を超えて

“心踊る春 装いに思いを込めて”これは3月に初めて開催されたシニアファッションショーのテーマ。



▲シニアファッションショー

65歳以上のシニアが、スポットライトを浴びながら花道を歩くことで、健康で楽しい生活を送るきっかけにしてもらおうと企画した事業。プロのモデルによるウォーキングレッスン等モデルに変身するために、5ヶ月間の講座を経ながら晴れ舞台に立ちます。お気に

入りの衣装で音楽にのってさっそうとステージを歩き、きめのポーズをきめた瞬間、会場から大きな拍手や歓声が沸き上がりました。シニアの皆さんが音楽に親しみ、音楽を通じた健康づくりや



友だちの輪を広げてもらおうと企画した事業。65歳以上のシニアが中心に活動している団体が、ミューザ川崎シンフォニーホールで日頃の練習の成果を披露し、音楽の楽しみや素晴らしさが体感できるシニア音楽祭です。出場者は、各区から推薦を受けた合唱・合奏27の団体。世界的な音響を誇るミューザで演奏した人たちは、感激もひとしおのことと思います。また、出場者と会場を埋め尽くした人たちが一体となって合唱を行い、世代も立場も超えて人を結びつける音楽の持つ素晴らしい力を感じさせるイベントを行うことができたと担当者らは話します。



▲シニア音楽祭

市制80周年に「音楽のまち・かわさき」が発足し、10年が経ちます。これからは、若い人だけではなく、シニア世代も音楽イベントに積極的に参加しながら楽しみ、希望（生きがい）に繋がる「音楽のまち・かわさき」を目ざしたいと担当者はいいます。

■問合せ：川崎市市民・こども局市民文化室 TEL 044-200-2306

施設めぐり

市内公的施設および当財団が管理運営する施設の紹介

大山街道ふるさと館

JR 南武線武蔵溝ノ口駅・東急田園都市線溝ノ口駅下車、徒歩 7 分
東急田園都市線高津駅下車、徒歩 5 分 TEL 044-813-4705

～歴史をつなぐ 人をつなぐ大山街道ふるさと館～



▲大山街道の探検

ふるさと館は平成 26 年度から 31 年度までの 5 年間、(公財)川崎市生涯学習財団とNPO 法人教育活動総合サポートセンターが引き続き指定管理者を担っています。地域や市民の皆さまの期待に応え満足していただく取り組みを進めてまいります。事業の実施にあたっては、博物館、歴史文化探究、地域活性化を各事業に分け、内容の新設と充実を目指します。博物館事業では通常の常設展と企画展の他に、ミニ企画展を開設(4月、9月、1月)。

また、ふるさと発見講座や街道学習講座(街道歩き)等も回数を増やして実施します。地域の小学生に郷土愛を育む目的で発足した「子ども大山街道探検クラブ」はすでに4月23日から活動を開始しています。今年度もふるさと館事業への参加と協力をお願いします。



▲郷土理解講座

川崎市幸図書館

JR 川崎駅西口北バスターミナル・武蔵小杉駅、市営バス 71 系統「幸区役所入口」下車徒歩 5 分 TEL 044-541-3915

多様な活用方法がある幸図書館へ
ぜひ足を運んでみてはどうでしょうか。



▲幸図書館



▲図書館入口

1980年(昭和55年)7月に開館以来、30年以上地域の人々から親しまれ、活用されています。場所も幸区役所に隣接した幸文化センター内にありとても便利です。

図書館に入ると、右側に川崎フロンターレから寄贈された絵本や選手たちお薦めの「川崎フロンターレ文庫」があります。左側には、年配者に人気の高い「大活字コーナー」も用意されています。その他に、幼児向けやティーンズ向け、女性誌、男性誌等多様なジャンルの雑誌がそろえてあります。

イベントは、乳幼児から大人向けまで、充実した楽しい企画を行っています。読み聞かせもその一つです。開催日につきましては図書館へお問合せ下さい。

(読み聞かせの様子)→



その他の施設紹介

- 2階「談話コーナー」(飲食もできます)
- 「臨時閲覧コーナー」(夏休み等の宿題に使えます)

川崎市橋本サイクルコミュニティセンター

JR 南武線武蔵溝ノ口駅から市営バス溝 23 系統「大原」下車・東急田園都市線「梶ヶ谷」から徒歩 15 分
TEL 044-857-1146

みんなで3Rに
チャレンジ!



お気軽にご来館下さい。

市民のごみ3R(減量化、再使用、再資源化)活動を支援。センターでは、リサイクルに関する展示や情報提供、教室の開催、季節のイベントなど様々な活動を行っています。

8月! 特別イベント!



「親子で楽しむ牛乳パック工作教室」

お子さんの夏休みの宿題工作に、また親子のスキンシップに、是非ご参加下さい。開催のご案内は、6月以降に館内ポスター、ホームページ、チラシ等でお知らせします。



- 《展示コーナー》 不用になった家具類を回収し、必要な方に提供(毎月40点)(抽選)。リサイクル衣類、古本、陶器なども安価で販売。
- 《リサイクル教室の開催》 講師、スタッフの講座を毎月開講。(現在11講座)牛乳パックを原料にはがきを作る「紙すき教室」や廃材を使った「木工教室」、古いTシャツなどで作る「エコぞうり教室」、小さな機織り教室など短時間で楽しく学びます。
- 《不用品の回収》 常時不用品の持ち込みを受け付けています。利用してみたいかがですか。例:古着(他の方がすぐ着られる状態のもの)、廃食用油、古本、陶器類(新品のみ) <http://www.tesco-inc.jp/tachibana-rcc/>

市内施設の各種取組と当財団が主催する講座等の案内

川崎市環境総合研究所

JR 川崎駅東口臨港バス「川 02」殿町下車徒歩 3 分
臨港バス「川 03」キングスカイフロント入口下車徒歩 4 分
TEL 044-276-9001



▲川崎生命科学・環境研究センターLiSE 3階

川崎市環境総合研究所は、市内の大気の常時監視・成分分析や、河川などの水質分析を行い、市民のために環境課題を解決する研究を進め、国内外の都市や研究機関、優れた環境技術を有する市内企業などと連携し、川崎のフィールドを活かした環境の総合的な研究に取り組んでいます。

また、研究成果や立地を活かし、多様な主体と連携した環境教育・学習を実施しています。

主な環境学習・イベント・セミナーを紹介します。実験や観察など体験型の講座をたくさん予定しています。日時等は環境総合研究所ホームページをご覧ください。



主な環境学習・イベント・セミナー予定表

- オープンラボ 2014
《6月25日実施予定》
- 夏休み環境科学教室
《7月下旬～8月中旬まで4回実施予定》
- 干潟の生きもの観察会
《8月中旬～9月上旬まで複数回実施予定》
- 環境科学セミナー
《9月～11月に3回程度実施予定》
- およこ環境科学教室
《調整中》

川崎市環境総合研究所

検索

陶芸教室

平成26年度 第11期生涯学習フラガ

受講生募集

- 受講対象者は18歳以上の市内在住・在勤者
 - ※) 市外の方は定員に余裕があれば可能です。
 - ※) 電動ろくろ希望者は手びねり経験者に限ります。
- 費用には、受講料以外に教材費(粘土・釉薬・焼成)が含まれています。
- 講座は全12回、陶芸家の先生の学習計画にそっておすすめします。
- 定員を超えた場合は抽選になりますが、初めての方を優先しています。
- 詳細の案内チラシは、各区の区役所・市民館・図書館の情報コーナー等に置いています。
- 申込み締切: 7月5日(土)です。(必着) ※往復ハガキでお申し込みください。

市内一充実した施設です!

初めての方も大歓迎です!



▲陶芸作品

コース	水曜手びねり	水曜電動ロクロ	土曜手びねり	土曜電動ロクロ
期間	8月20日～11月26日		8月23日～11月29日	
時間	9:30～12:30	13:30～16:30	9:30～12:30	13:30～16:30
定員	15名	10名	15名	10名
費用	33,000円	39,000円	33,000円	39,000円
講師	陶芸家 村主 武先生		陶芸家 徳丸 鏡子先生	

■ 問合せ
川崎市生涯学習財団
事業推進室陶芸担当
中原区今井南町 514-1
TEL 044-733-5893
Eメール academy4@kpal.or.jp



▲電動ロクロ



▲陶芸窯



▲手びねり

あとがき

■ 学びについてアインシュタインは、こんなことを言っている。『学べば学ぶほど、自分が何も知らなかった事に気づく。気づけば気づくほどまた学びたくなる』。■ 今回、取材した鈴木繁夫さんや老川美芳さんは「教えている人々から逆に多くのことを学び、その都度新たな課題が生まれくるという。■ 実は、当財団が発信しているメールマガジン巻頭文の一節に「耕不尽(こうふじん)」について述べている。「田畑は毎年耕作し収穫をあげても無くならない。そのように人間の心田も耕せども尽きることはなく耕せば耕すほど豊かな実りをもたらすものだ」と。■ そして、日野原重明さんが心田の「田」は脳であり、脳(田)が「心」の上に乗っているのが「思」とお話しされたことと、今回取材したお二人の言動が重って見えた。

放送大学平成26年度10月入学生募集

(教養学部・大学院文化科学研究科修士課程)

出願期間 平成26年6月15日(日)～8月31日(日)
インターネット出願もできます。

放送大学は、
1科目から学べる、
通信制の大学です。

- テレビやラジオで、マイペースに授業が受けられます。
- 各都道府県にある、キャンパスが学びをサポートします。
- 放送大学「エキスパート」なら、興味のあるテーマを体系的に学べます。



〒261-8586 千葉県美浜区若葉2-11 TEL 043-276-5111(総合受付)

詳しくは、電話・FAX・HPで
募集要項(無料)をご請求ください。

0120-864-600
www.ouj.ac.jp

放送大学 検索

検索エンジン(yahoo! JAPAN・Google等)で、「放送大学」とご入力の上、ご覧ください。



神奈川学習センター

公開講演会・大学説明会・入学相談会等のご案内

住所 神奈川県横浜市南区大岡 2-31-1

TEL 045-710-1910

最寄駅 市営地下鉄「弘明寺駅」下車徒歩5分
京浜急行線「弘明寺駅」下車徒歩12分

◇公開講演会(要予約) 各日とも13:00～14:45 定員180名

7/12(土)「国際経営を学ぶ」

7/20(日)「素人から見た数学—円周率の昔話—」

8/9(土)「記憶の心理学—人生を紡ぐ自伝的記憶—」

8/17(日)「教養と対人支援のための臨床心理学」

講演会に引続き大学説明・施設見学・入学相談 各日とも15:00～17:00

◇三二大学説明会(両日とも14:00～15:00)

6/29(日)・7/5(土)

*DVDによる大学紹介・施設見学等

●入学相談会(学生種・科目の選び方、出願票記入等々)

8/19(火)～31(日) ※8/25(月)は休館のため除く

各日とも10:00～12:00、14:00～17:00

◎入学相談会は事前予約制です、お電話でご予約ください。

東京渋谷学習センター

公開講座・大学説明会・入学相談会のご案内

住所 東京都渋谷区道玄坂1-10-7 五島育英会ビル1階

TEL 03-5428-3011

最寄駅 渋谷(JR、東京丸の内線、東急、京王) 5～10分

◇公開講座(要予約) 定員150名

7/15(火)18:30～「問題解決のコツ」

会場/渋谷東急プラザ8F AP 渋谷

申込み/大学ホームページで受付しています。

◇大学説明会&入学相談会のご案内

7/12(土)、7/19(日)、8/10(日)、16(日)

□大学説明会:13:30～14:00 15:00～15:30 予約不要

□入学相談会:10:00～16:00 ※要予約

会場:AP 渋谷道玄坂(渋谷区道玄坂2-6-17 渋谷シネタワー11・13階)

●入学相談会(学生種・科目の選び方、出願票記入等々)

8/19(火)～31(日) ※8/25(月)は休館のため除く

各日とも10:00～16:00

会場:東京渋谷学習センター講義室他

詳しくは学習センターにお問い合わせください。

◎入学相談会は事前予約制です、お電話でご予約ください。

川崎市青少年地域間交流事業 ふれあいサマーキャンプ 参加者募集 !!

夏休み、大自然の中で素敵な体験が皆さんを待っています。川崎市の代表として楽しい文化交流を体験してください。



■参加対象: 市内在住、在学の小学校5年生～
中学校2年生。※参加費は、集合(解散)からの往復交通費・宿泊・食事代・保険料等を含む。雨天決行



- ①益田市「川遊び」
- ②古座川町・太地町「カヌー」
- ③富士見町「酪農体験」
- ④花巻市「和紙すき」
- ⑤中標津町「溪流釣り」

コース名	日 程	募集人数	参加費(円)
島根県 益田市	7月25日(金)～28日(月) (3泊4日・往復 航空機)	小学生14人 中学生 6人	52,000 53,000
和歌山県 古座川町・太地町	7月29日(火)～8月1日(金) (3泊4日・往復 鉄道)	小学生16人 中学生 8人	36,000 48,000
長野県 富士見町	7月29日(火)～8月1日(金) (3泊4日・往復 バス)	小学生30人 中学生10人	19,000 20,000
岩手県 花巻市	8月1日(金)～4日(月) (3泊4日・往復 鉄道)	小学生16人 中学生 8人	37,000 47,000
北海道 中標津町	8月19日(火)～22日(金) (3泊4日・往復 航空機)	小学生16人 中学生 8人	59,000 67,000

【申込みについて】

○期日: 5月23日(金)～6月6日(金)必着

○方法: FAX、ハガキ、Eメールで参加希望者(2人以内)の氏名(ふりがな)、住所、電話番号、学校名、学年、性別、生年月日、希望コース(第2希望まで)を明記し、下記までお送りください。

定員を超えた場合は6月14日(土)午後3時より公開抽選を行います。(川崎市生涯学習プラザにて)

*6月28日(土)午前10時より生涯学習プラザにて参加者説明会がありますので、参加者は保護者同伴で出席ください。予備日: 7月5日(土)午前10時～

○宛て先: 〒211-0064 川崎市中原区今井南町514-1(公財)川崎市生涯学習財団サマーキャンプ係
FAX: 044-733-6697 Eメール: summer-camp@kpal.or.jp

○問合せ: (公財)川崎市生涯学習財団 事業推進室 TEL 044-733-5572(月～金)

*財団ホームページ <http://www.kpal.or.jp>で「ふれあいサマーキャンプ」を紹介しています。